【様式2】再助成校枠用

2023年度　第10回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」　申請書

西暦　　年　　月　　日提出

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
理事長　鈴木　佑司　殿

申請枠	再助成校枠		
学校名	（フリガナ）		
本校は、下記内容にて助成申請を行うとともに、 「教員研修会」および「活動報告会・減災教育フォーラム」の全日程へ教員を派遣いたします。 所属長名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （公印）			
学校住所	〒		
全校児童・生徒数	名	全学級数	クラス
学校ＴＥＬ		学校ＦＡＸ	
担当（派遣）教員名	（役職：　　）		
担当教員 Email			

申請活動のテーマ	
防災・減災教育を実施する教科領域等（複数可）	
申請活動の実施期間 継続活動/新規活動	西暦＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日　～　西暦＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日 （　　）継続活動　　（　　）新規活動 ※継続活動の場合は、これまでの実践資料を参考資料として添付して下さい。
対象学年/参加生徒数	（　　）学年　（　　）人（複数可）
活動に携わる教員数	（　　）人
活動に参加する地域住民・保護者等の人数	（　　）人（※想定で可）【保護者・地域住民・その他（　　）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
アプローチ	※該当するものに〇をつけてください（複数可） （ ）地域連携　（ ）避難訓練・避難所運営　（ ）専門家の活用　（ ）体験学習 （ ）学校間・地域間交流　（ ）教科連携　（ ）地域発信　（ ）カリキュラム開発
想定する災害	※該当するものに〇をつけてください。複数可。 （ ）地震・（ ）津波・（ ）台風・（ ）洪水・（ ）河川氾濫・（ ）土砂 （ ）その他【　　】
1)貴校（地域）における災害リスクや特性 【審査基準①】 地域で想定される災害リスクや、地理・文化・歴史等の特性を踏まえた活動であるか。	
2）貴校の教育課程における、防災・減災教育の必要性 【審査基準②】 学校の教育課程において必要性が高い活動であるか。	
3)貴校の防災・減災教育のねらいと育成すべき資質・能力 【審査基準③】 防災・減災のねらいおよび育成すべき資質・能力が明確であるか。	

【様式2】再助成校枠用

4）貴校の 2023 年度の防災･減災教育の全体計画と本助成で実施したい具体的な内容 【審査基準④】 児童・生徒が防災・減災について主体的に学び、考え、取り組む活動であるか。 ※教科・領域、クラブ活動、生徒会活動、PTA や地域との活動も含みます。貴校の取り組みの状況に応じてご記入ください。	（１）2023 年度の防災・減災教育の全体計画 （２）本助成で実施したい具体的な計画・内容 ※活動の補足説明資料などがある場合は、A4 サイズ用紙（片面印刷）で添付してください。
5）活動の持続発展性 【審査基準⑤】 活動終了後、その後のさらなる取り組みへの展開が期待できる活動であるか。 （活動の持続発展性） 例）今年度の取り組み終了後、持続可能な防災・減災教育活動としてどのような継続・発展を目指すか。	
6）地域に期待する波及効果 【審査基準⑥】 本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑにおける研修での学びや自校の取り組みを他校や地域に発信するなど、地域への波及効果が高い活動であるか。 例）地域や外部団体と連携してどのような防災・減災活動が展開できるか。	
7）前回本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに参加した際の成果と、現在の自校における取り組みの課題を踏まえて、今回どのようなことを学び、今後の取り組みの改善、継続･発展を目指していくか。 【審査基準⑦】 本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの研修の成果を活かし、これまでの取り組みを改善して、今後の取り組みを持続可能なものとし、継続・発展しようとしているか。	
8）助成金の必要性	
9）地域団体等の協力がある場合はその団体名	
10）その他 **（過去の発表歴等）**	

【様式2】再助成校枠用

申請活動の予算概要 学校名：〔　　〕 留意点：他団体などへの寄付金や自家用車やマイクロバス等のガソリン代は助成できません。		
助成金の申請理由と使途目的		
費目	内容・積算	金額
		円
		円
		円
		円
		円
		円
		円
		円
	支出見込合計	円
＜収入見込＞		
内訳	内容	金額
本助成金		100,000 円
学校予算		円
その他		
	収入見込合計	円

【申請書類】

以下を同封のうえ、郵送にて2023年5月31日（水）までにご申請ください。

① 本申請書（予算概要を含む）

② 活動補足説明資料　※ある場合　A4サイズ（片面印刷）